

GINIKA

2026 新春

銀海

No.274

教室だより 東京慈恵会医科大学 眼科学講座

新刊書紹介 "Atlas of Lacrimal Drainage Disorders, 2nd Edition"
"Principles and Practice of Lacrimal Surgery, 2nd Edition"



医療法人社団 吉徳会 あさぎり病院

〒673-0852 兵庫県明石市朝霧台1120-2
TEL 078-912-7575

人にやさしい医療を目指して

幅広い眼科医療を提供し地域医療に貢献を

理事長 明石 梓^{あかし あずさ}



● 病院の沿革

医療法人社団吉徳会あさぎり病院は、兵庫県明石市に位置する、眼科、産婦人科、内科・健診科で構成される総合病院です。その歴史は、1947年に仲上徳子先生が明石市に診療所を開設したことに始まりました。その後、1970年に淡路島・瀬戸内海・明石海峡を一望する原野であった朝霧の地に「私立朝霧病院」として開院し、眼科が新設されました。

当時、民間病院が地名を名乗ることは認められていなかったのですが、創始者の地域に根差した医療機関でありたいとの強い意向が県に認められ、地名を付けることが可能となりました。

開院時は病床数32床の小さな病院でしたが、1989年には法人化により「医療法人社団吉徳会あさぎり病院」と改称し、病床数は次第に増えて99床となりました。以来、地域に根付いた総合病院へ発展し、現在に至ります。

初代理事長・仲上徳子先生から始まり、二代目理事長・藤原りつ子先生、三代目理事長・藤原卓夫先生へと受け継がれ、私で四代目となります。

● 理事長就任にあたって

私は2007年に広島大学医学部を卒業後、神戸大学眼科へ入局し、同大学大学院では中村誠教授のご指導の下、緑内障の臨床・研究を行ない、学位を取得し

ました。その後、加古川中央市民病院の原ルミ子主任科部長の下で研鑽を積んだ後、2019年にあさぎり病院へ入職しました。あさぎり病院では、医師としての仕事を行ないながら、前理事長から病院経営の基本を学び、2021年に理事長就任となりました。



病院外観

2021年は奇しくもコロナ禍と呼ばれる、新型コロナウイルスの蔓延でさまざまな困難がある時期でした。コロナ禍の最中に理事長に就任したことは、「人と人とのつながりを大事にして頑張りなさい」という初代理事長からのメッセージのような気がしております。

現在、理事長5年目となりますが、周りの皆さまに支えてもらいながら、同時に院長に就任した内科医である夫と共に病院の運営に邁進しております。

● 病院概要

当院は、総敷地面積4721・37平方メートル、延べ床面積6866・25平方メートルの5階建ての建物で、1階に各科外来、2階に産婦人科・眼科病棟(計49床)、3



病院受付



待合

表1 各専門外来をご担当いただいている非常勤医師の先生方

網膜硝子体外来	前野貴俊先生(大阪大学寄附講座教授) 瓶井資弘先生(愛知医科大学主任教授)
黄斑外来	川崎良先生(大阪大学公衆衛生学教授)
ぶどう膜外来	沖波聡先生(佐賀大学名誉教授)
斜視弱視外来	木村亜紀子先生(やさしい目のクリニック院長)
角膜外来	相馬剛至先生(大阪大学講師)
眼形成外来	三村真士先生(くろしお眼科・形成クリニック院長)
多焦点屈折矯正外来	森井香織先生(森井眼科クリニック院長)

階に眼科・内科病棟(計50床)、4階に手術室、医局、会議室、5階に食堂と屋上庭園があります。

現在、常勤医師19人、診療支援部35人、看護部96人、事務部64人、計214人で構成されています。

● ワーク・ライフ・バランスへの取り組み

初代理事長、二代目理事長も女性であり、ワーク・ライフ・バランスへの取り組みはいち早く行なわれ、女性の働きやすい環境づくりに力が注がれました。

具体的には、当時はまだ珍しかった院内保育園が開設当初より設置され、看護師をはじめ働く女性職員の助けとなりました。現在、院内保育所である「なかよし保育園」は、2009年に新設した多

目的ホール「ドリームドーム」へ移転し、広々とした環境の中で子供たちの保育が行なわれています。病院は24時間働く職員が必要となりますので、院内保育園もそれに合わせて夜間保育も行なっております。

また、院内の看護師たちで助け合いながら、院内専用の病児保育のシステムを構築し、子供の急な病気や発熱時にも預けられる体制を整えています。

● 眼科診療

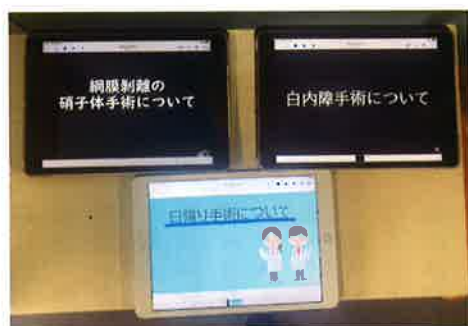
当院の眼科には常勤医師が7人在籍しており、全員がサブスペシャリティ領域を持ちながら外来と手術を担当しております。また、より専門的な治療を必要とする眼科疾患に対応できる非常勤医師にも外来や手術を受け持っていたいただいております(表1)。

手術室は3室あり、それぞれに眼科手術用顕微鏡(RESCAN 700, OPMI Lumera 700, OPMI VISU 210:すべてZEISS社)を備えています。手術室1、2には白内障手術装置(CENTURION Vision System: Alcon社)、硝子体手術装置(CONSTELLATION Vision System, UNITY VCS:ともにAlcon社)、乱視矯正ガイドシステム(CALLISTO eye: ZEISS社)を設置しており、2人の術者が白内障手術と硝子体手術を同時に行なえるようになっています。手術室3は主に硝子体注射に使用しています。

また、手術室1には全身麻酔機器があ



手術風景



患者さまへの説明などで活躍するiPad

り、小児や局所麻酔で手術が難しい症例は非常勤の麻酔医を招致し、全身麻酔で対応しております。なお、局所麻酔での手術に対して不安が強い患者さまには、笑気麻酔を併用して手術を施行しています。

2024年の手術実績は、白内障手術2730件、網膜・硝子体手術420件、緑内障手術127件、斜視手術116件、眼瞼手術267件、涙道手術105件、ICL18件、その他の手術を合わせて計4005件でした。また、抗VEGF薬の硝子体注射は1948件でした。

当院は兵庫県東播地区の臨海部中央に位置しており、神戸市と明石市の市境近くに立地しております。このため、両市

をはじめ、南は淡路島、北は三木市・小野市など、県内各地域からも多くの患者さまにご来院いただいております。

ICT化への取り組み

当院では、多くの外来患者数および手術件数に対応できるように、人力への依存を抑えたシステムづくりに注力しています。

具体的には、白内障や硝子体手術等のインフォームド・コンセントに関して動画資料を作成し、患者さまにはiPadを用いて手術申し込み時にご視聴いただく運用を導入しています。その他、日帰り・入院手術の説明等もすべて動画で視聴いただいております。会議や委員会もペーパーレス化によりiPadを利用しているため、現在当院では35台のiPadが活躍しています。

また、当院眼科医師考案による呼び出しシステム「Air Call」を全科で活用し、リーズナブルで有効的な患者さまの呼び出しを実践しています。今後は生成AIの電子カルテの活用などを検討しており、さらなる自動化および効率化を図った上で、それによって生まれた時間で患者さまとコミュニケーションをしっかりと取りながら、より質の高い医療提供に努めていこうと考

えております。

今後、医療機関に求められること

医療現場は依然として多くの課題に直面しています。激動する国際情勢や国内での物価上昇、さらには超高齢社会への移行および診療報酬改定などの影響を受け、医療機関を取り巻く経営環境はますます複雑化しています。

今後、中小規模病院が持続可能性を確保するためには、地域社会のニーズを的確に把握し、自院の強みを生かした戦略とその実行が不可欠です。当院においても、急性期眼科医療への積極的な対応を通じて「選ばれる医療機関」となることを目指し、患者さま、近隣医療機関の先生方、職員から信頼される体制づくりに努めていきたいと考えています。

昨今の医療経営に関する報道はネガティブなニュースが目立ちますが、医療を通じて患者さまと地域社会へ貢献することとは、医療従事者にとって最大の使命であり、働く意義であると認識しています。これは私たち特有のやりがいであり、苦しい状況でも仕事を続けていく原動力だと思っています。

こうした思いを胸に「人にやさしい医療を目指して」という基本理念のもと、同じ志を持った職員との協働を喜びとし、感謝の念を忘れず、前向きに業務に取り組んでいきたいと思えます。

これからもあざざり病院を、どうぞよろしくお願い申し上げます。